

## 平成 28 年度動物慰霊式

科学分析支援センター 足立 明人

平成 28 年度埼玉大学実験動物慰霊式が 10 月 19 日(水)14 時 40 分から理学部 2 号館第一会議室において開催されました。主催は埼玉大学、そして科学分析支援センターが動物慰霊式の次第を取り仕切りました。実習、卒業研究、そして研究の目的で実験動物を使用している方々、研究機構に属する教職員、そして動物の御霊に感謝し安らかな眠りを祈りたいという方々、126 名の参加者がありました。

式は、足立明人准教授(科学分析支援センター、埼玉大学動物実験委員会委員)の司会により進められました。坂田一郎准教授(埼玉大学動物実験委員会委員長)による開式のことばに続いて、小林哲也教授(理工学研究科)のあいさつがありました。挨拶では、現在動物実験がおかれている内外の状況について説明されるとともに、あらためて 3R の原則の遵守することの意義についてお話がありました。続いて動物飼育室の利用者を代表して川村哲規准教授(理工学研究科)より慰霊のことばが捧げられました。生命の真理を追究する上で動物を使うことについて、我々は常に自問自答するべきであり、科学の発展に貢献するという崇高な目標に邁進するだけでなく、犠牲となった動物への慈しみや感謝の気持ちを持つ必要性を述べました。さらに、動物犠牲のうえで得られた貴重な情報を、生命科学の発展や優秀な人材の育成として社会に還元することを誓った。次に参加者全員によって花が捧げられ、黙祷することによって、実験動物の御霊に対する深い感謝と安らかな眠りを祈りました。最後に石井昭彦・科学分析支援センター長のことばによって式が閉じられました。

動物慰霊式の開催を通じて、教職員・学生、研究者の方々がより深く動物愛護について考えていただける様に願います。また、動物実験についての動向は常に変化しております。科学分析支援センターは埼玉大学動物実験委員会と協力して、最新の情報収集をするとともに、適切な動物実験と動物の飼養が行われるように今後も情報発信を継続致します。

